

『気候変動政策と健康上のコベネフィット推進のための 共同研究プロジェクト』の学びを経て



●目的

気候変動政策と健康上のコベネフィットに関する以下の分野に関し、現地視察（アメリカ・フランス）を通じて、参加都市間で知見の共有と意見交換を実施

（１）熱中症の軽減

（２）自然を基盤とした解決策（Nature based Solution）



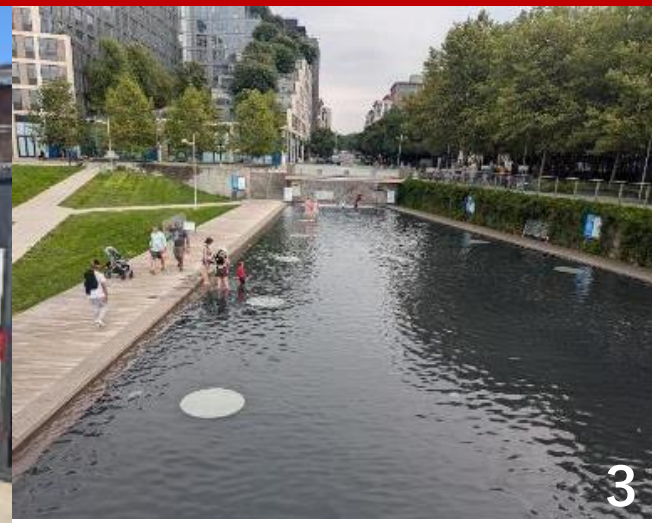
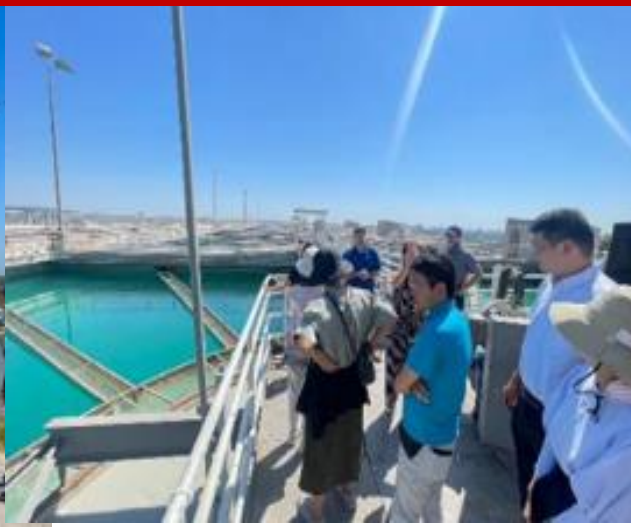
上記に係る海外都市の知見を獲得し、**本市の気候変動適応策や緑政事業に活用**

●庁内体制

環境部門	緑政部門
環境局環境総合研究所 事業推進担当 都市環境担当	建設緑政局緑政部 区役所道路公園センター



アメリカ視察の学び



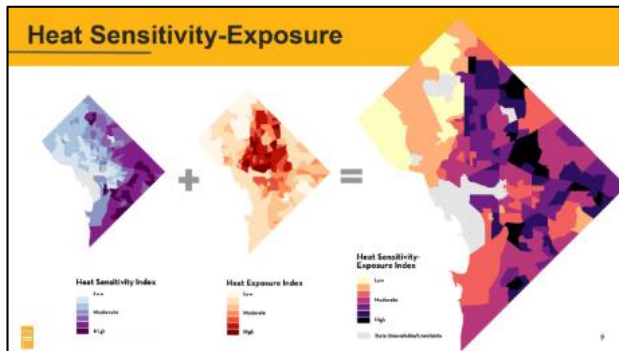
アメリカ視察の学び

～気候変動、熱中症、NbS～



気候変動、熱中症対策

●ヒートマップの活用



公平性の観点から、「暑熱」と「暑さに対する弱者」の分布を重ね、**優先取組地区を明確化**

●避難施設の設定



クーリングセンターやレジリエンスハブの開設
ボランティアによる高齢者の安否確認

●啓発活動



ヒートプレイブックの作成
(暑さ対策の普及書)

自然を基盤とした解決策 (Nature based Solutions : NbS)

●NbSによる街づくり



雨水貯留機能を有する
レインガーデン

フランクリンパーク
(ワシントンD.C)

●NbSによる気候変動対策

貧困層の居住区（東側）にみどりが少なく、
公平性の観点から東側に優先的に植樹



オースティン市の緑の分布



フランス視察の学び



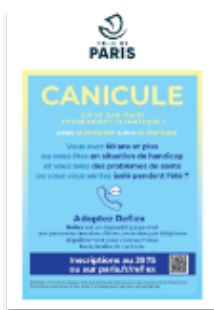
フランス視察の学び ～気候変動、熱中症、NbS～



気候変動、熱中症対策

● Reflexシステムの運用 ～社会的弱者への支援～

- ・対象：60歳以上の高齢者
- ・熱波や洪水等の際、警報レベルに応じて**電話連絡や家庭訪問を実施**



● 市民が涼める場所「クールアイランド」

- ・公園等の緑地、教会、水場等が対象
- ・公平性の観点から全ての市民が7分以内にアクセス可能（日中は達成）
- ・エアコンがない家庭が多く、**夜間の熱中症対策が課題**

- 1 公園、庭園
- 2 教会、宗教施設
- 3 図書館
- 4 美術館、博物館
- 5 福祉施設
- 6 噴水など水浴びできる場所



● まちなかの給水スポット

- ・市内に約1200か所を整備
- ・**誰でも無料で利用可能**



自然を基盤とした解決策（Nature based Solutions : NbS）

● スクールオアシス



- ・学校校庭を緑化改修や日よけを設置
- ・**クールスポットとして地域に開放**

緑化改修を施した学校校庭

● グリーンインフラの活用



- ・公園内の雨水を貯留して洪水抑制に貢献（左）
- ・多様な樹木構成による緑陰形成（右）

グリーンインフラとして
良質な公園



まとめ／成果の活用



まとめ ～両都市の共通点とそれぞれの課題～

● 共通点

- ・ 気候変動対策で「公平性」を重視
- ・ ヒートマップを用いた重点地域の抽出
→暑さを見える化し、組織で共有することで効果的な施策を展開
- ・ 暑い日の社会的弱者への直接の呼びかけ
→アメリカの都市：ボランティアが高齢者に安否確認
→パリ市：行政が要支援者に電話連絡が家庭訪問
- ・ みどりを気候変動対策（暑熱対策等）に活用
→グリーンインフラを活用した公園整備等



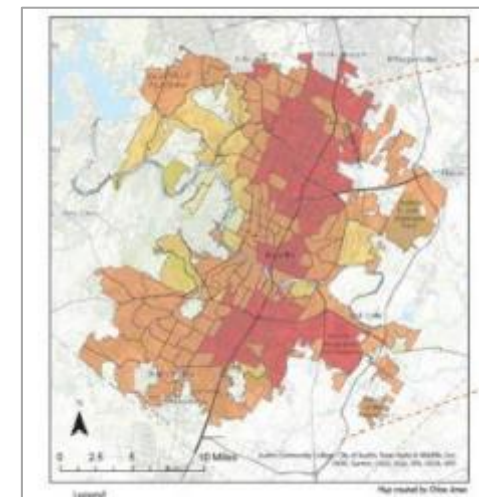
● 課題

- ・ クーリングセンターの利用率の低さ 
→暑い日には、外に出るのが困難なため、施設の利用率が低い。
- ・ エアコンが普及せず、夜間の熱中症対策に課題 
→エアコンがない家庭等が多く、特に夜間の熱帯夜の対策に課題

成果の活用 1 ～気候変動適応策の推進～

① ヒートマップを活用した暑さの見える化

- ・ 熱中症に関する地域リスクを可視化するツールとして、IGES、国立環境研究所等と連携して作成予定
- ・ 熱中症の要因となりうる地域リスク、リスク軽減要素となるクールスポットを重ね、重点取組地区を抽出
- ・ 効率的・効果的な熱中症対策の推進に活かしていく



地域のリスクを可視化

② ちょこ涼

- ・ 外出時等の熱中症対策のため、「一時的に暑さをしのぐ場所」として、夏季の一定期間、市内の約200施設を利用できるようにした



ちょこ涼

③ 熱中症救急搬送状況に関する地域特性を踏まえた要因分析

- ・ 社会福祉に関する項目等の地域特性が、熱中症救急搬送状況に影響を与える可能性を調べ、地域の実情に合わせた熱中症啓発に活かす

成果の活用 1 ～気候変動適応策の推進～

④市民向けワークショップ等の開催

- ・気候変動が更に進むことで生活へ及ぼす影響を共通のイメージとすることができるツール（啓発冊子）の作成



- ・市民が気候変動の生活への影響を自分事として捉えることを促すため、ツールを利用してワークショップを開催



- ・気候変動に適応した市民の行動変容を促す



※独立行政法人環境再生保全機構（ERCA）の「令和7年度地方公共団体における効果的な熱中症対策の推進に係るモデル事業」として実施

成果の活用 1 ～気候変動適応策の推進～

⑤行動変容を促す取組

●適応アクションの策定

- ・気候変動に適応した行動変容を促すため、エビデンスに基づく具体的な取組事例を紹介する「適応アクション」を作成

適応アクション1

これを実践！暑い夏を乗り切ろう～夏季の生活における実践すべき事項～

適応アクション2

クールに楽しもう！夏のイベント～イベント等の開催時に実践すべき事項～

●高齢者への声掛けツール作成

- ・液晶温度計付きのチラシを作成し、熱中症リスクの高い高齢者に声かけする際に活用して、熱中症を自分事と捉えてもらう

※独立行政法人環境再生保全機構（ERCA）の「令和7年度地方公共団体における効果的な熱中症対策の推進に係るモデル事業」として実施



液晶温度計付きチラシ

成果の活用2 ～緑政事業への活用に向けて～

① NbSの考え方に基づいたみどりの取組

- ・ 公園整備等で、雨水貯留や樹冠被覆率を高める植樹などグリーンインフラを意識した管理と両立した設計を推進
- ・ NbSの活用の必要性について、市民向け講習会やイベント等で啓発活動



レインガーデン（富士見公園）



イベントでの啓発活動のイメージ

成果の活用2 ～緑政事業への活用に向けて～

②公園や保全緑地での市民協働の推進

今回の海外視察や全国都市緑化かわさきフェアを契機に
みどりを介した社会の好循環を生み出せるよう、今後の
持続的な市民協働のあり方に活かしていく



●グリーンコミュニティの促進

- ・全国都市緑化かわさきフェアを契機として生まれた新たな
取組や人材・コミュニティを活かしたレガシーとなる協働
の形成促進

●新たな担い手の模索

- ・公園イドバタカフェなどを通じて活用から愛着を生み、
管理活動へつなげるきっかけづくりの継続



成果の活用2 ～緑政事業への活用に向けて～

③保全緑地での多様な主体との協働の推進

●里山コラボ事業の促進

- ・保全活動に「部署間交流」や「福利厚生」など新たな付加価値を見出し
参画企業を増やしていくことで緑地の機能活性化や利用機会創出を目指す



川崎市公式youtube
https://youtu.be/G_7LIGNhTWI



市と協定を結んだ企業による植樹の様子

ご清聴ありがとうございました



川崎市



川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

